

## 事業報告

報告者：ハートフル川崎病院 村松佳永仁 松本紀子 鈴木留美  
日時：平成 29 年 6 月 14 日（水）18：30～20：15  
場所：川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7階 第3会議室  
内容：「最近の食中毒の発生動向と効果的な食中毒の予防と対策」  
講師 東京サラヤ株式会社 南関東支店  
食品衛生インストラクター 馬場 智子 氏  
「何を優先するか：複数の病気を持つ患者への栄養管理」  
総合川崎臨港病院 水口 尚子 氏  
「栄養士同士が顔の見える関係であることの重要性を感じた症例」  
川崎市立井田病院 亀山 亜希夫 氏

### 「最近の食中毒の発生動向と効果的な食中毒の予防と対策」

毎年 6 月には食中毒をテーマとする研修会が行われます。今回は、①最近の食中毒発生状況の確認、②ノロウイルスを中心とした感染予防対策についてご講演を頂きました。

発生件数、患者数の多いカンピロバクター、ウェルシュ菌、アニサキス(寄生虫)、ノロウイルスの特性について再確認すると同時に、それらの対策として(アニサキスを除く)徹底した手洗いの重要性を改めて痛感いたしました。その他にも不顕性感染者への注意やノロウイルスに感染した場合の処理、対応などについて細かく説明いただきました。

当院で行っている体調管理チェック表の意味や重要性を再確認し、食材の取り扱いにも今以上に細心の注意を図りたいと思います。



### 「NST活動報告-何を優先するか～複数の病気を持つ高齢者の栄養管理～」



二つ目の講義では、総合川崎臨港病院 栄養科 水口尚子先生より、NSTの活動報告をして頂きました。この報告では、パーキンソン病のジスキネジア、精神症状による拒食が起因と考えられる低血糖、低栄養の予防を目的にNSTが介入していく具体的な流れについて細かく説明していただきました。複数の病気を持つ高齢患者の場合、薬剤療法による内服調整だけでなく、「食事時間の調整、薬効を邪魔しない栄養補助食品の選択、輸液管理」といった様に様々な切り口からの治療が求められていることに気付かされました。

当院にはNST活動こそありませんが、今回の水口先生のお話を参考に、より細かな栄養管理ができるよう努めていきたいと思います。

### 「栄養士同士が顔の見える関係であることの重要性を感じた症例」

三つ目の講義では、川崎市立井田病院 食養科 亀山亜希夫先生より、他施設の栄養士とどのように連携をとっていったら良いのか、具体的に症例を追いながらお話を頂きました。

日々の業務の中で、私達は他施設の栄養士とコミュニケーションをとることが、ほとんどないのが現状です。しかし、患者の入退院時等にサマリーを作る必要性や積極的に他施設の栄養士が連携をとることで、患者の経過が変わってくる例を目の当たりにし、より質の高い医療を、食事を通して提供するためには、地域の栄養士同士、広くひらかれた関係性をつなげていくことが大切だと感じました。このような研修の機会も業務につなげていけるよう、努力していきたいです。

